

事業名	トコブシ母貝供給モデル開発試験
予算区分	計画調査費（経営推進課）
事業実施期間	R4～R6
担当者	（海洋生産技術担当）石川貴志、小倉季人
共同研究機関等	

<目的>

海洋環境が変化する中、アワビ漁獲量は減少傾向にある。漁業者は、禁漁区の設定と種苗放流による積極的な資源回復に努めているが、アワビは成長が遅く、効果発現に年数を要する。また、海水の高水温化の影響もあり、より南方系で成長の早いアワビ類であるトコブシ *Haliotis diversicolor* を狙った漁に移行する漁業者が急増し、トコブシ資源に過度に高い漁獲圧が掛かっている。小島ら(2022)は、海部郡牟岐町における調査で、成熟が確認されたトコブシの最小サイズは殻長 32 mm であり、県規則ではそれよりも小さい殻 30 mm から採捕可能であることから、産卵母貝が減少し再生産が阻害される恐れがあるとしている。そこで、本事業では、トコブシ資源の持続的な利用を可能とするため、トコブシ産卵母貝の保護・育成を図る禁漁区の設定、母貝となる人工種苗の放流を行うことで、トコブシ母貝供給モデルの開発を検討する。

<方法>

令和6年2月 28 日に保護区(ヌノシマ北東)に放流した種苗(4,500 個)について、11 月 13 日及び令和7年3月8日に保護区内の再捕率の調査を行った。

また、11 月 13 日の調査時に 137 個体を港に持ち帰り、殻長と成熟状況を調査した。

<結果>

再捕率は、表1.のとおり(前年度に実施した調査も併せて記載する)。

表 1. 再捕数と再捕率

調査日	再捕数	再捕率
R6.3.11	1,952	43.4%
R6.11.13	1,033	23.0%
R7.3.8	670	14.9%

11 月 13 日調査時 137 個体の平均殻長は 37.2 mm だった。放流時の平均殻長は 33.2 mm のため、4 mm 成長したこととなる。成熟状況は雄 40 個体、雌 57 個体、未成熟 40 個体だった。雄は生殖巣が発達している個体が確認できたが、雌は生殖巣が収縮している個体しか確認できなかった。このことから、すでに産卵を終えたと考えられ、放流貝が保護区内で再生産に寄与している可能性が高いことがわかった。

#### <今後の課題>

保護区を設定するにあたり、関係者の合意を得る必要がある。また、種苗放流を行うための費用が発生するので、その費用を分担、補填等の施策が必要である。

#### <次年度の計画>

後継課題:アワビ再生産増大技術の開発を行う。

#### <結果の発表・活用状況等>

他地区での禁漁区設定に向け、放流マニュアルを作成し、本試験成果の周知を行っていく。

#### 参考文献

小島博・廣澤晃・森啓介・中西達也・上田幸男. 徳島県牟岐町地先における人工種苗および天然産トコブシの成長と産卵に関する知見. 徳島水産報第 14 号, 2022.